

パラグアイ情勢 (2025年2月)

【国内政治】

- ゴメス下院議員殺害事件に関するレガル判事の情報漏洩
3日、2024年8月に発生したゴメス下院議員殺害事件に関し、アスンシオン交際のレガル判事がメディアに対して、被害者の生前のチャット履歴を漏洩していた旨報じられた。当該チャット履歴は、捜査の進展には直接的に関係がないとされている。
- アレバロ下院議員の議員辞職
8日、アレバロ下院議員（下院判事訴追委員長。与党コロラド党）は、レガル判事による情報漏洩があったゴメス下院議員の殺害される前のチャット履歴によって、汚職、犯罪組織との癒着が明らかになり批判が殺到したことを契機として辞職届を提出した。その後、18日に辞職届が受理された。
- パラグアイが汚職認識指数調査で南米でワースト2位に
12日、当地主要紙は、NGO 団体「トランペアレレンシー・インターナショナル」が行っている調査「汚職認識指数2024」で、パラグアイが3年連続ワースト2位にランクインした旨を報じた。最も腐敗している0点から最も腐敗が少ない100点までの点数で評価されるが、今年のパラグアイの点数は24点であり、世界180ヵ国の中では、昨年より13位後退し、149位であった。なお、南米最下位はベネズエラ（10点）、ワースト3位はボリビア（28点）となっている。
- ペニャ大統領の支持率低下
18日、当地主要紙は、亜 CB-Consultora の世論調査結果として、ペニャ大統領の支持率を43.1%と発表。2024年12月に3位（支持率46.7%）であったペニャ大統領は、南米諸国の大統領の中で6位となり支持率が低下したと報じた。1位はウルグアイ、2位は亜、3位エクアドル、4位はチリ、5位は伯がランクインした。

【対外関係】

- スイス・パラグアイ外相会談
3日、ラミレス外相は、パラグアイを訪問中のスイス外相と外相会談を行った。共同記者発表では、123年の両国関係史上初のスイス外相のパラグアイ訪問である点に触れつつ、二国間関係、二地域間関係（メルコスール・EFTA）の一層の強化で一致した。

- 板垣大使の信任状捧呈

4日、板垣駐パラグアイ日本国大使はペニャ大統領に信任状を捧呈し、英雄廟での献花を行った。板垣大使は、ペニャ大統領と日パラグアイ関係のさらなる強化のために協力することで一致した。同日、スペイン、コスタリカの大使も信任状を捧呈した。

- ラミレス外相が OAS 事務局長選挙へ正式に立候補

10日、ラミレス外相は OAS 事務局長選挙へ正式に立候補した。同日、スリナムのラムディン外相も同選挙に立候補した。両者はワシントンにて自身のアクションプランを20分間で伝え、各加盟国の OAS 代表からの質疑に応じた。OAS の財政問題、LGBTI+、気候変動、ベネズエラ、キューバ、ニカラグアに対する立場等が議論された。

- ラトレ下院議長のドバイ訪問

11日～13日、ラトレ下院議長は、自身の SNS で、アリアナ副大統領と共にドバイで行われた第10回世界政府サミットに出席し、海外投資家に対してパラグアイへの投資を呼びかけたと発表した。パラグアイは最善の投資環境を誇り、高品質な食料品を輸出できるとしてアピールした。

- ラトレ下院議長の米国訪問

21日、ラトレ下院議長は、自身の SNS で、ワシントン D.C.を訪問し、米務省のコーノ・スール地域及びブラジル担当と会談し、OAS 事務局長選挙へのラミレス外相の立候補や麻薬・組織犯罪撲滅に関する協力強化について意見交換したと発表した。